

ウォーター PPP を支える企業

現場・地域に根差した 管路管理の包括的民間委託事例



管清工業(株)
東京本部技術部

高橋 宏



管清工業(株)
東京本部技術部 公共技術課

高崎 暢哉



管清工業(株)
東京本部技術部 公共技術課

布施 京悟

1 はじめに

下水道管路の維持管理を支える点検・調査や清掃・修繕、計画策定といった業務は、技術革新や最新機器の導入によって日々進化している。しかし一方では、自治体・民間企業ともにヒト・モノ・カネの課題を抱えており、すでに多くの施設が老朽化を迎えるなか、従来のように個々の業務を個別最適化するだけでは持続的な維持管理が難しい現実に直面している。

この状況に対応するためには、個々の業務を一つにパッケージ化し、維持管理全体のサイクルを俯瞰した全体最適化を図る必要がある。この流れのなか、自治体と民間企業が協力してインフラを支える官民連携の取組みとして包括的民間委託は誕生した。

管清工業(株)は、インフラがまだ建設中心だった時代から維持管理の重要性に着目し、「常にお客様に満足いただけるサービスを提供」という経

営理念のもと、下水道管路の維持管理を専門とする企業として60年以上の歴史を築いている。平成6年には東京都青梅市で、下水道管路分野では初となる包括的民間委託業務（以下、包括業務）を受注。その後30年以上にわたって全国各地の包括業務に携わり、下水道のトータル的な維持管理を支えてきた。本稿では、当社が取り組む包括業務の事例、そしてウォーター PPP への展望を紹介する。

2 管理のプロならではの「5つの力」

当社が取り組む包括業務では、常に独自の「5つの力」（現場力、技術力、情報力、地域密着力、統括マネジメント力）を支柱としている（図-1）。

① 現場力

作業を行う現場の実情をすべての基礎とする現場主義により、計画・提案で示す内容や工事の動きが実際の現場と一致するよう努め、現実 に即

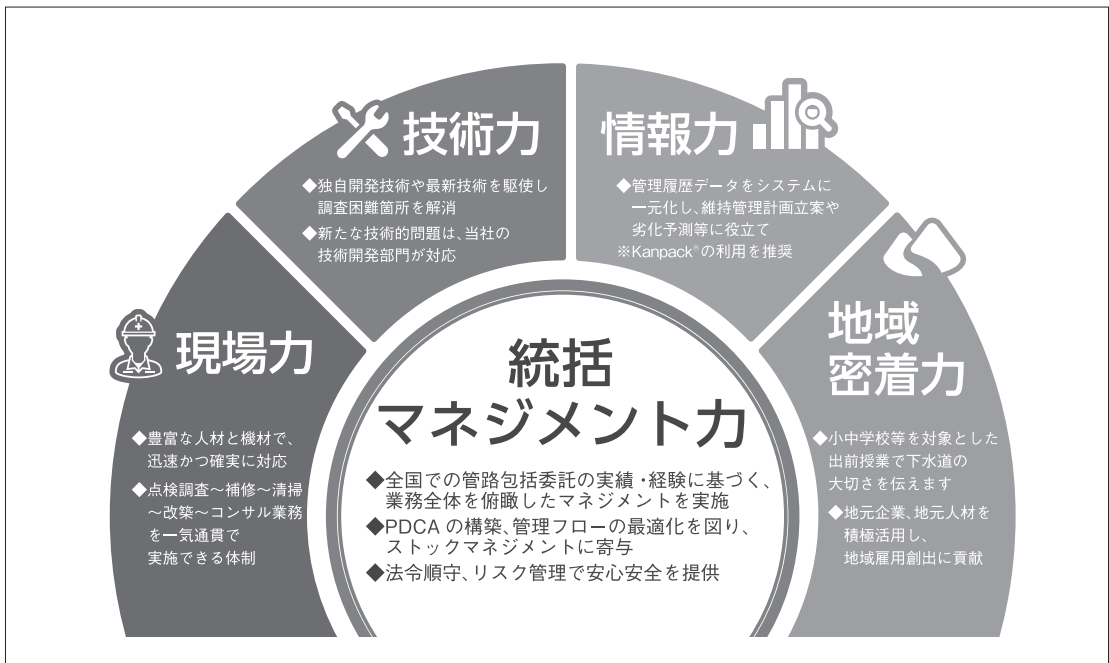


図-1 管清工業の「5つの力」のイメージ

した確実なメンテナンスサイクルを実現する。

② 技術力

現場の課題解決や業務の効率化などのニーズをもとに、当社の技術開発部門が新技術を開発。スクリーニング調査専用機器『KPRO』や、維持管理情報を電子データとして管理するシステム『Kanpack』といった当社独自の技術を日々現場に送り出している。

③ 情報力

情報の電子化・一元管理により、確実性のある提案や計画策定、緊急時における迅速な情報アクセスが可能である。

④ 地域密着力

現場では地元企業を技術的にバックアップし、一方で各種計画策定など地元企業にとって難しいタスクは当社が担当。「地元のできることは地元」をモットーに、地域の下水道の維持管理全体の品質向上に寄与している。

⑤ 統括マネジメント力

JV各社のまとめ役として複数の包括業務で統括業務を実施。当社の得意とする維持管理技術を生かし、自治体との窓口役としてスムーズな運営を可能にしている。

3 受注事例と特徴

当社が取り組む包括業務の主な内容は、統括、点検調査、修繕、住民対応、不明水対策、データ管理、計画策定などであり、地域の状況やJVメンバーの構成を考慮して最適な組合せ・分担で実施している。以下では、当社が「5つの力」を発揮して取り組んでいる実際の包括業務のうち、特に地域に根差した事例を紹介する。

3.1 東京都小笠原村 (平成27年開始、第三期目)

東京都小笠原村は、本土から渡航24時間の小笠原諸島に位置している。本包括業務はこの地域で、